

会 議 録

会議名	平成21年度第2回 八王子市市史編集委員会	
日 時	平成21年6月6日(土)午後2時～午後4時15分	
場 所	八王子市市史編さん室	
出席者氏名	委員	藤田覚委員長、新井勝紘副委員長、畔上能力委員、池上裕子委員、 関和彦委員、前田成東委員、松尾正人委員、光石知恵子委員
	説明者	佐藤広市史編さん室長、新井雅人市史編さん室主幹
	事務局	(説明者のほか)福田美和子市史編さん室主任、 渡部恵一市史編さん室主事、押田佳子市史編さん専門員、 白石烈市史編さん専門員、中村元市史編さん専門員、 馬場有美市史編さん専門員、松尾あずさ市史編さん専門員、 柳沢誠市史編さん専門員
欠席者氏名	相原悦夫委員、小川直之委員	
議 題	1. 専門部会の活動状況について 2. 市史編集方針(案)について 3. その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 市史編集専門部会調査活動報告 資料2 八王子市市史編集方針について	

会議の内容

1. 開会

【藤田委員長】それでは第2回編集委員会を開会する。相原委員、小川委員から欠席の連絡があるが、出席8名で会議は成立している。

それでは、まず事務局から職員の紹介を願いたい。

(人事異動等に伴う職員の紹介)

2. 専門部会の活動状況について

【藤田委員長】それでは次第にそって進める。まず専門部会の活動状況についてである。この1か月間、各専門部会が活動を進めているが、その内容を順次報告してもらいたい。

(各専門部会長から配付資料に沿って活動状況を報告)

- (1) 原始・古代部会(関委員)
- (2) 中世部会(池上委員)
- (3) 近世部会(藤田委員長)
- (4) 近現代部会(新井副委員長)
- (5) 自然部会(畔上委員)
- (6) 民俗部会(小川委員欠席のため、事務局から報告)

【藤田委員長】各部会から活動状況の報告があった。各部会とも、従来の一般的な自治体史の組み立て方に加え、八王子という地域に則した内容のものを作っていきたいというのが共通した考えのようである。

では、続いて今後の専門部会の活動の方向、計画について、事務局から何かあれば報告願いたい。

【新井主幹】各部会とも、この4月、5月から会議や調査を始めることができ、うまくスタートを切れたと思っている。委員の方々に感謝したい。今後の専門部会の調査活動に関して、2点お願いしたい。

1点は、今年度の調査活動についてである。今年度の活動経費はすでに予算に計上されているので、あくまでもその範囲内であるが、各部会で活動計画を検討していただき、今年度の調査活動を計画的に進めていただきたい。

もう1点は、平成22年度以降の活動計画についてであるが、前にも説明したとおり、毎年9月ころが翌年度の予算を編成するため、市の財政当局に書類を提出する時期となっている。各部会で来年度以降の中期的な調査計画を検討していただき、今年の9月ころには少なくとも、平成22年度の活動に必要な予算が要求できるようにしていきたい。この2点

が、今後の専門部会の活動に関してお願いしたいことである。

3. 市史編集方針（案）について

【藤田委員長】それでは、次の議題に移りたい。前回は話があったが、この委員会では市史を編集するうえでの基本的な方針を作成することになるので、その素案を事務局で作成した。今日この場で決めるということではなく、あくまで素案であるという前提で事務局から説明願いたい。

【佐藤室長】配付資料2をご覧願いたい。まず、1として市史編さん基本構想と編集方針との関係を示してある。基本構想は広く市民の立場から市史編さんの基本理念をうたったもの、それに対して編集方針は具体的な編さんの実務の指針を示すものととらえている。

次の2では、基本構想（素案）にある編集に関する考え方を抜粋した。これらの考え方を編集方針の中に具体的に表現することになる。

裏面の編集方針（素案）をご覧願いたい。あくまでも素案として考えてほしいが、まず市史編さんが専門家のみが関わって仕上げる仕事ではないことをうたいたいと考え、前文として、地域の課題解決のために歴史的な考察、理解が必要であること、市民生活が個別化、細分化している中では、今後のまちづくりに歴史的な考察が欠かせないことを示した。

次に、具体的な項目として1から9までの項目を掲げてある。1から3は、基本構想と重なるが、4は、各分野で共通する、時間軸をどのようにとらえるかという考え方である。5は対象とする地域をどうとらえるかという重要な部分である。

8の執筆に際してであるが、全体的には、編集委員会等で全体の調和を取ったうえで、各部門の執筆者の個性を生かすような手法で、本編、資料編を作り上げていただきたいと考えている。9として、本編、資料編の段組とページ数の考え方を示した。前回の委員会でも各委員からの意見が出ているので、これはあくまでもたたき台をお示ししたものである。

特に重要と思う部分は、4の時間軸をどうとらえていくかという部分、5の地域、空間をどうとらえていくかの部分だと思う。この2点が柱になっていくかと思うので、ある程度の議論をして文言をまとめていければいいと思う。

以上の編集方針（素案）と併せて、「市民協働について」という資料を配付してある。これは、前回の委員会で、委員から市民協働の概念像が必要という話が出たので、資料として作成したものである。表のうえでは、市民協働の対象を、市民や研究者のような「個人」と「団体」とに分けてある。これら全てを同じレベルで行っていきけるわけではないので、事務局主導でどこかに重点を置いて展開をしていく形になると思う。

一方、行政側としては市民協働のベースとして、透明度の高い仕事をしていく必要がある。そのため事務局が中心となって市民協働に関する情報公開を進めていく必要があると考えている。

【藤田委員長】編集方針についての素案の説明と市民協働についてのイメージの提示があ

った。編集方針は素案ということなので、自由に意見を出してもらいたい。

【委員】5の空間ということについて言えば、八王子を描くには三多摩という地域の中で考えなくてはならず、さらには「武相」というように武蔵だけが独立しているわけではない。このようなことを意識していけばいいということだろう。

【委員】八王子の市域で起こったことを、八王子市域のことだけで説明することができないことはよく分かる。せめて多摩一帯という範囲の中で考えなくては説明がつかない。簡単に言えば八王子の市域が孤立した歴史を営んだわけではないので、全国なり、周辺部なりとの関わりの中で八王子の歴史を描こうということだろうか。

【委員】3の中に「遺跡や遺構」という言葉があるが、普通、遺跡と遺構は同列に並べないので、並べるなら「遺構と遺物」のほうがいいのではないか。

【委員】6では「わかり易く書くが、学術研究に基づき正確に」と言っている。反対側の面の基本構想のほうでは「質の高い内容で、分かりやすく」とあるので統一したほうがいい。どちらかといえば、学問的に高い内容だが、分かりやすく書くという順番のほうがいいかと思うが。

【委員】時代区分については、いつでも問題になる部分だ。具体的に言えば八王子の場合、千人同心は近世の根幹になるところだが、千人同心が幕末、維新で消えてしまうかということ、そうではない。では、それをどの時代区分で扱うかということ難しくなる。個々の内容に応じて編集するしかないのではないか。

【委員】8の囲みの中に「各巻等においては各部会の個性を生かす」とあるが、これは各部会で、あるいは執筆を担当される方の考えや個性を生かす、しかし各巻ごと、また全体としては調和を取るとということだろうか。

【委員】執筆者にどのような個性の方がいらっしゃるか分からないが、各研究者の個性を出すということを、あまり明確にうたうと、かえって混乱しないかなという心配もある。

【佐藤室長】あまり各巻の内容を締め付けるのではなく、部会長の考えが各巻に反映されるほうがいいという思いで書いた部分である。一般の人が八王子市史を面白くないというのは、執筆者の史観、歴史に対する研究者の思いが表れていないためかとも思う。個人的には各部会長の史観が見えるような方が、一人でも多くの市民に受け入れられるのかと思っている。

【藤田委員長】他にもいろいろとあると思うが、今日は以上とし、引き続き議論することにした。

4. その他

【藤田委員長】それでは、その他として編集委員会の今後の進め方について、事務局から説明願いたい。

【新井主幹】今年度前半に何回か編集委員会を開催し、編集方針や編集方針の一環としての刊行物の体裁などを早めに決めていきたい。

また同時に、基本構想に盛り込む予定の本編、資料編の刊行計画についてであるが、各部会で話を聞くと、この計画では今後の調査、執筆に無理が生ずるのではないかという意見もいただいている。そこで、現段階で刊行計画の内容を見直すとしたらどうなるのか、できれば編集委員会の場で各部会長から意見をいただき、基本構想に反映できればいいとも思っている。

さらに、編集委員会で各専門部会の活動情報を共有する、部会間で調整が必要な事項を話し合うといったことは引き続き行っていきたい。

【藤田委員長】刊行計画については、実際に調査に入る以前に決めたことなので、実態に合っているかどうかという疑問はある。この後、この計画について各部会で議論していただいて現実的なところを決めるということか。

【新井主幹】あくまでも、現在の案を基本にした中で、どうしても作業上不可能が生じる可能性がある部分を手直しする、という意味での調整ととらえていただきたい。

5 . 閉会

【藤田委員長】それでは、他になければ、これで本日の委員会を閉会する。

平成 2 1 年 1 1 月 1 2 日

会議録署名人 畔 上 能 力